

次号予告

特集 慢性関節リウマチと理学療法・作業療法

慢性関節リウマチ治療の最近の進歩..... 東大物療内科 荻田 忠厚・他
関節可動域制限のある RA 者に対する

アイソメトリックエキササイズの方法... 甲州中央温泉病院 藤本 欽也・他
カナダにおける RA の OT による

訪問指導..... 東大・リハ部 木 村 信 子
RA 患者の頸部痛に対する

ソフトネックカラーの装着..... 中伊豆リハ病院 小 野 敏 子

私たちの工夫した自助具..... リウマチ友の会 島 田 広 子

とびら 内因・外因..... 東京病院付属リハ学院 島 田 孝

プロGRESS 運動及び知覚の再教育(再訓練)..... 新潟大学・整形 田 島 達 也

職業リハビリテーション(4)..... 身体障害者雇用促進協会 松 井 亮 輔

Recommended Readings (理学療法部門) 運動療法... 府中リハ専門学校 森 永 敏 博
(作業療法部門) 義肢・装具・

自助具..... 都心障センター 古 川 宏

文献抄録

講 座 教育学シリーズIV 教育方法(1)..... 玉川大学 沼 野 一 男

付 第13回 PT 学会・第12回 OT 協会学会プログラム

編集後記

脳卒中が特集として取りあげられる頻度は多いようである。そのため、企画する側にとってはネタ探しに頭を悩ます。しかし、時代の流れとともに、新しい考え方、発見などがあり、それらを適時取りあげて行くことができる。また、同じ論題であっても、執筆者によって、見解や持味が異なったりするので、ものごとを大局的に思考する機会を得ることができる。

今回は上肢機能に対するセラピーを作業療法の立場から池ノ谷氏にまとめていただいた。そして、中枢疾患の歩行訓練にあたってセラピストが理解を深めておいた方がよいとおもわれる歩行の生理学を森氏に、実際のアプローチとしてバイオフィードバックの観点から山下氏にまとめていただき、小生は反射と中枢プログラミングの観点からまとめてみた。しかし、何はともあれ、退院した患者が家庭や社会の中でどの

様な生活を送っているかということが終極的な問題になる。そこで、大峯氏に退院後の実態調査の結果を考察していただいた。

教育学シリーズⅢとして、白石氏の教育哲学は、PT・OT の教育理論の構築に向けて書かれている。氏は我々の活動の指標とすべき地図を作成しその検証を実践のなかで行っていくことを指摘されている。しかし残念なことに、我が国において、この地図を作っている人々は実践を知らない偉い人たちなのである。1821年に日本の最初の地図をあらわした伊能忠敬は全国を隈無く歩き廻ったと聞く。

「研究と報告」として、鈴木氏と藤林氏の論文をそれぞれ紹介した。兵庫リハセンターからの投稿が目立つが、これは、当センターのスタッフが研究プロジェクトをつくり、日々の実践を体系づけようとされている熱意の現れであろう。敬意を表したい。

(奈良 勲)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五 味 重 春
筑波大学心身障害学系教授

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
わらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハセンター

鈴木 明 子
府中リハビリ専門学校

寺 山 久美子
都心障センター

奈 良 勲
有馬温泉病院

福 屋 靖 子

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大 橋 博

大 丸 幸

金 子 翼

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

駒 沢 治 夫

佐 藤 章

佐 藤 馨

嶋 田 智 明

高 橋 正 明

武 富 由 雄

谷 岡 淳

富 岡 詔 子

中 屋 久 長

藤 沢 しげ子

松 本 妙 子

丸 谷 隆 明

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

和 才 嘉 昭
(担当 細田・西塚)